



研究者総覧：梶山 洋介 (MOMIYAMA, Yosuke)

氏名	梶山 洋介 (MOMIYAMA, Yosuke)	
職名	教授	
所属講座	日本語文化専攻現代日本語学講座	
学位（専攻分野）	修士（文学）・東京大学	
メールアドレス	j46083a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp	
ホームページ	http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/nichigen/gendai/momiyama.html	
研究分野	意味論	
	認知言語学	
	日本語学	
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 百科事典的意味観 ・ 言語の基盤としての認知能力の体系化 	
所属学会	日本認知言語学会	
	日本語文法学会	
	日本語学会	
主要著書・論文	「百科事典的意味観」『認知言語学論考』No. 9、山梨正明他編、ひつじ書房、2010年	
	「百科事典的意味とメタファー」『日本語研究の12章』上野善道監修、明治書院、2010年	
	『認知言語学入門』研究社、2010年	
	「カテゴリーのダイナミズム——『人間』を中心に」『ことばのダイナミズム』森雄一他編、くろしお出版、2008年	
	『日本語は人間をどう見ているか』研究社、2006年	
自己紹介文	<p>言語の「意味」とは一体何であろうか。こんなことを飽きもせず、ずっと考えている。一つの攻め方として、言語表現の適切な理解は、「意味」としてこんなものを想定しないと成り立たないというやり方が考えられそうだと思い、「百科事典的意味観」に至った。だが、真実の周りをぐるぐる回っている程度という気がする。まだ、入り口にも立てないといったところか。</p> <p>それから、「意味」と人間の「知（の営み）」はどんな関係にある</p>	 <p>日本語の「概念メタファー」を論じたもの</p>

	<p>のか。さまざまな言語現象の基盤として、いろいろな認知能力が提案されているが、まだまだ交通整理が必要だと思う。「言語の基盤としての認知能力の体系化」という大きな課題がある。</p> <p>結局、言語（の意味）を入り口として、人間の「知」について考えたいのである。ただし、私が持っているのはわずかばかりの「言語学」の素養だけであるから、あくまで言葉から入っていくしかない。これまでも、「知」について考え抜いて言葉についての考察を深めるとい方向が当然あったわけだが、私には残念ながら無理である。自分の非力を悟りながらも、一步一步進んでいくしかない。</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>大学院は何をすところかと言え ば「自分の得意なことをすところ」 である。「得意なこと」と「好きなこ と」を見誤らないようにしてほしい。 「自分は何をやっているのか」と問 い続けることも大事である。それか ら、「直観」が大切である。直観が的 確であれば、一定の手順を踏んで、 まともな論を構築することができる。 手順は学ぶことができるが、「直 観」は学んで身に付けられるもので はないのが辛いところである。それ から、言語研究・日本語研究は基本的に個人的な営みである。問題 設定から論文の完成まで、孤独に耐えられなければならない。一人 で考えるのが得意な人が向いている。もちろん、これまで、多くの 院生と有意義な議論を重ね、共に成長してきたという実感はある。 しかし、考えるのは本人であるということを再度強調しておきたい。 さて、これまで私のところでは、15名以上の院生が「直観」を大い に働かせ、「得意なこと」に磨きをかけ、博士論文を結実させた。こ れからも「得意なこと」に大いに励みたい才能豊かな院生との出会 いを心待ちにしている。</p> <div data-bbox="1007 734 1302 1144" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1007 1160 1302 1218">認知言語学の基本概念を 日本語を例に解説</p>